

Claudio Monteverdi Favola in musica L'ORFEO

クラウディオ・モンテヴェルディ

音楽物語 オルフェーオ 1607年初演 字幕付き抜粋上演

ギリシャ神話を題材として生まれた
イタリア・バロックオペラの最高傑作「オルフェーオ」

太陽神アポロの息子、歌と豎琴の名手オルフェーオは
蛇に咬まれて命を落とした妻エウリディーチェをもとめて冥界へ向かう
はたして彼は、音楽の力で愛する人をとりもどすることができるのか！
1607年、マントヴァのゴンサーガ家宮廷での初演から400年
野の草や木、獣たちも涙したというオルフェーオの声を90席の空間で聴く

演出： ティモシー・ハリス

衣装美術： 望月 通陽

出演：

オルフェーオ	中鉢 聡 [T]
エウリディーチェ	柴山 晴美 [S]
ムジカ 他	波多野 睦美 [Ms]
ニンファ 他	高橋 美千子 [S]
プルトーネ 他	藤澤 真理 [Br]

演奏：

バロックヴァイオリン	宮崎 容子
リュート	つのだ たかし
ヴィオラ・ダ・ガンバ	福沢 宏
ポジティブ・オルガン	上蘭 未佳

2007年

4月2日(月) 4日(水) 5日(木) 各日19:00開演

ムジカーザ 渋谷区西原3-33-1 小田急線・千代田線[代々木上原駅]東口徒歩2分

前売券 全席指定(90席) 一般¥8,000 学生¥5,000 当日券は残席のある場合のみ

チケット予約

◎ダウランド アンド カンパニイ Tel.Fax.04-2955-6652
<http://www.linkclub.or.jp/~dowland> dowland@air.linkclub.or.jp

◎ムジカーザ Tel.03-5454-0054 Fax.03-5454-0053
<http://www.musicasa.co.jp> piano@musicasa.co.jp

主催 MUSICASA
照明 IMPRESSION 足立恒
字幕 MUSICASA 八柳智美
企画協力 ダウランド アンド カンパニイ





イタリア・バロックオペラ最高傑作の「オルフェオ」は、今からちょうど400年前、マントヴァのゴンサーガ公爵邸の広間で初演されたこの時代のイタリアでは「歌いつつ語る」唱法＝レチタール・カンタンドという 劇の台詞をそのまま歌にのせるようなスタイルが生まれこれまでにないドラマティックな音楽表現、おおがかりな舞台装置、豪華な衣裳など、見る者聴く者の度肝をぬくような舞台も演出された

そんな新しい時代の作曲家自身が求めたものに あたかも逆行するかのように見える今回の公演
望月通陽による象徴的な美しい衣裳、歌を支え、物語をつむいでいくために必要最低限の古楽器
この簡潔で小さな舞台の中に、歌物語の凝縮された核の部分が見えてくる

演ずる者と聴きとどける者との間に満ちる モンテヴェルディの濃厚な時間

— つのだからし —

▼オルフェオ 中鉢 聡 (テノール)

藤原歌劇団で活躍する美声のテノール。東京芸術大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。1992年ロッシーニ国際オペラ・コンクール入選。1995年「椿姫」のガストンで藤原歌劇団にデビュー。その後イタリアに渡り、ミラノでボッケリーニの「スタバト・マーテル」などのコンサートに出演。帰国後は「椿姫」のアルフレード役、「トスカ」のカヴァラドッシ役などで絶賛を博す。新国立劇場には開場記念公演「建・TAKERU」の両面少名でデビュー以来「こうもり」「マノン・レスコー」「セビリアの理髪師」「ドン・キホーテ」「オテッロ」などに出演している。その他、サントリーホールホール・オペラ「ドン・カルロ」「第九」やドニゼッティ「レクイエム」、ゲルギエフ指揮／読響ベルリオーズ「レクイエム」、NHK教育テレビ「愉快なコンサート」へのレギュラー出演、国際サッカー試合での国歌独唱など多方面で活躍し注目を浴びている。

▼エウリディーチェ 柴山 晴美 (ソプラノ)

輝かしい声と卓越した装飾の技量でイタリアバロックの歌の魅力を存分に表現する注目のソプラノ。国立音楽大学教育音楽学科卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部終了。その後「魔笛」「コジ・ファン・トゥッテ」「電話」等に出演。宗教曲においても「戴冠ミサ」「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」等のソリストとして好評を博す。イタリア留学中には、フィレンツェ大聖堂でのミサ礼拝のソロや「レクイエム」(フォーレ)でソロを務めたほか、ミラノを中心にイタリア各地で多くのコンサートに出演。声楽を羽根田宏子、M.ミネット、通奏低音とアンサンブルを岩淵恵美子の各氏に師事。

▼ムジカ／メッサージェラ 他 波多野 睦美 (メゾソプラノ)

歌に豊かな表情を与え、心に残る人物像を描き出す、現在の古楽界を代表する歌手。ロンドンのトリニティ音楽大学声楽専攻科修了。リュートソング、バロック歌曲、カンタータ、宗教歌曲、日仏英の近現代歌曲のレパートリーで日本、イギリス、ドイツなどで数多くのコンサートを行い、高い国際的評価を得ている。また「オルフェオ」のムジカ、「ダイドとエネアス」のダイド、「イドメネオ」のイダマンテ役などでのオペラ出演でもその表現力で注目される。「涙の形」(2006年度「レコード芸術」レコードアカデミー賞受賞)、「古歌」「ひとときの音楽」など、CD作品も多数発表している。

▼宮崎 容子 (バロックヴァイオリン)

ヴァイオリンを板橋健、瀬戸瑠子、景山誠治、バロックヴァイオリンを渡邊慶子、R.ボジャー、S.スタンデジの各氏に師事。東京音楽大学音楽学科器楽科卒業後、2004年に渡英。ギルドホール音楽院に学び、ディプロマを得て終了。理事長推薦による特待生として引き続き研鑽を積む。在学中ハンブルグで2回のリサイタルを行い絶賛を受ける。W.クリスティー指揮のオペラツアーに参加。現在バロックリリオ・オウレリア、ロンドン・フェスティバル・オーケストラメンバー。オーケストラ・エイジ・オブ・エンライトメントの研修生としてイギリスを中心に活動中。

▼福沢 宏 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

オランダのデン・ハーグ王立音楽院卒業。ヴィオラ・ダ・ガンバをヴィーラント・クイケン、室内楽をシギスヴァルト・クイケン、バルトルド・クイケン、ルーシー・ファン・ダールの各氏に師事。ソロおよび通奏低音奏者として栃木「蔵の街」音楽祭、北とびあ国際音楽祭、福岡音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル、NHK・FMリサイタルなどに出演、全国各地で盛んな演奏活動を行っている。「ザ・ロイヤル・コンサート」「バッハ・コレギウム・ジャパン」メンバー。東京芸術大学古楽科講師。

▼演出 ティモシー・ハリス (俳優／英文学評論家)

1980年代に来日。故アラン・ブースと共に日本全国各地で様々な詩人の作品を演じた。NHKTV、東京国際ショナルプレイヤーズ制作の演劇に出演。また多くのシェイクスピア作品を演出し、出演。クリストファー・マロウのエロティックポエトリーをロンドンのポエトリーセンターで上演。海外の文芸誌、新聞に文学・芸術全般に関する執筆活動が続けている。上野学園大学助教授。

▼衣裳美術 望月 通陽 (造形作家)

染色、陶芸、ガラス絵、紙版画、リトグラフ、木彫、ブロンズなど、多様な手法を用いて独自の作品世界を築いている。作品集に「円周の羊」(新潮社)「サリーガーデン／イギリスの愛の歌」「道に降りた散歩家」(偕成社)「方舟に積むものは」(筑摩書房)などがある。CD装画も数多く手がけている。1996年「オルフェオの悲しみ」(鉄仙会能楽研修所) 2003年「竹取物語」(東京芸大奏楽堂)公演でも衣裳美術を制作。

▼ニンファ 他 高橋 美千子 (ソプラノ)

群をぬいた表現力をもつ期待の新星。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。在学中、芸術祭オペラ「フィガロの結婚」にスザンナ役で出演。2001年女声クラシック・アカベラ・グループ『アンサンブル・プラネタ』としてCDデビュー。以後5年にわたりクラシカルクロスオーバーの演奏スタイルで全国各地でコンサートを行う他、T V・ラジオにも出演し、大きな反響を呼ぶ。さまざまなジャンルのアーティストとも共演して活動の幅を広げ、愛知万博や韓国公演でも大きな成功を収める。06年アンサンブル・プラネタを退団しソロ活動に転身。現在は古楽、ヨーロッパの民謡を中心とした演奏活動を行っている。

▼カロンテ／ブルトネ 藤澤 眞理 (バリトン)

深みのあるバリトン歌手としてオペラを中心に活躍している。国立音楽大学声楽科卒業。同大学院音楽研究科修了。リサイタルの他、オラトリオ、オペラに多数出演。1989年にイタリアに渡り、ベルージャ、ミラノ、ローマに留学。イタリアオペラをR.エリ、発声法をM.ファネッリの各氏に師事。帰国後「オルフェオ」「愛の妙薬」「椿姫」等イタリアオペラの他、「夕鶴」「那須与一」「瀧廉太郎」「修禅寺物語」「三人の女達の物語」など主に日本のオペラを中心に活躍している。日本オペラ協会会員。玉川大学リベラルアーツ学部準教授。

▼つのだからし (リュート)

ドイツの国立ケルン音楽大学リュート科卒業。リュート、バロックギターなどの古典撥弦楽器の独奏、歌曲の伴奏者としてヨーロッパ、日本で数多くのコンサートを行う。古楽器バンド《タブラトゥーラ》と宗教音楽を演奏する《アンサンブル・エクレジア》を主宰。古楽CDレーベル「パルドン」をプロデュースし、主に16-17世紀の声楽作品CDを発表。その多くは『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれている。舞台作品「コロンブスの夢」「悲しみのオルフェオ」などの企画も手がけ、古楽への新しいアプローチとして支持を集めている。

▼上 蘭 未佳 (ポジティブ・オルガン)

洗足学園大学音楽学部ピアノ科を優秀賞を得て卒業。同大学専攻科音楽学修了後、フランスのストラスブル国立音楽院チェンバロ科を金メダルを受賞して首席で卒業。ピアノを諸井泰子、石川治子、音楽学を市川信一郎チェンバロを岡田龍之介、渡邊順生、A.ジルベライシュ、オルガン・通奏低音・16〜18世紀の音楽解釈をM.ジェステールの各氏に師事。在学中よりフランス、ドイツ各地で演奏し帰国。現在ソリストおよび通奏低音奏者として日本各地で演奏活動を行っている。アンサンブル「レ・キャトル・セゾン」メンバー。洗足学園音楽大学、東海大学非常勤講師。



MUSICASA

小田急線・千代田線「代々木上原駅」東口 徒歩2分